



隠れ待機児童数が公開に

7月19日、市のホームページに「保育所等の待機児童数について」と題したページができました。これにより、私が主張をしていた待機児童数と隠れ待機児童数の市としての公開が実現しました。

これらのデータについて、これまで市は埼玉県に報告するのみで市としては公開をしていませんでした。私は3月議会・6月議会において、子育て世代が正確に現状を知ることができるよう市が責任をもって公開することを求めてきました。特に隠れ待機児童についてはこれまで県や国の資料から上尾市の該当箇所を探さなければわからなかったため、確認する手間が大幅に減ったと言えます。

今回公開となったデータを見ると、待機児童数は21名と、前年より3名減少した一方で、隠れ待機児童数は200名と、前年の151名から47名増え、1.3倍になっています。この隠れ待機児童を加えると実際に入所を希望しながら保育所に入れなかった児童は221名となります。

私は、この221という人数を前提として市は待機児童解消の取り組みをすべきであると考えています。例えば、「特定の保育所等のみの申込者」は除外の対象ですが、「片道30分かかる保育所では困る」「複数の子どもに同じ保育所に入ってもらいたい」という保護者の思いは自己都合として切り捨てて良いものでしょうか。また、緊急時に対応できる保育所を希望するのは当然であると考えます。私はこのような視点での訴えを続けていきます。



待機児童についてのシンポジウムに参加



キーワード

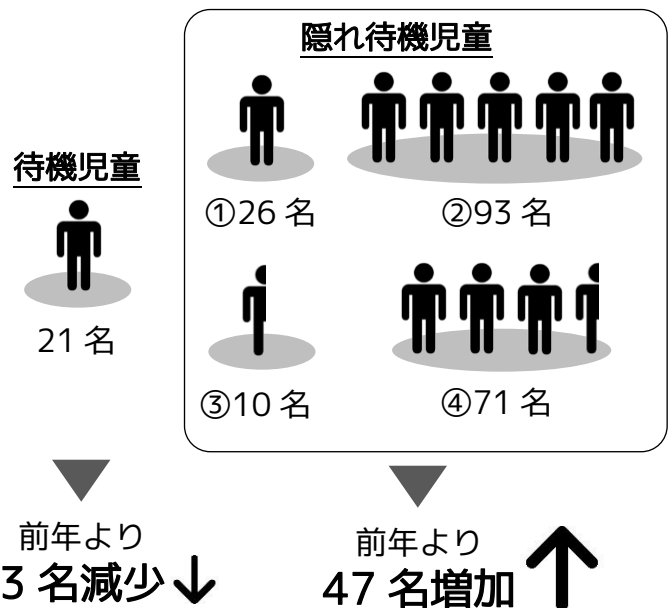
隠れ待機児童

国が定めた定義では①育児休業中、②求職活動を休止したり自宅で求職活動中、③自治体が補助する認可外施設などを利用、④特定の保育所等のみの申込者、は待機児童数に含めなくて良い。上尾市では④には家庭保育室や企業主導型保育事業が対象とされる。



データでみる

上尾市の「待機児童数」





Point

隠れ待機児童の何が問題？

私はこれまで隠れ待機児童についてのデータを市として公開することを求めてきましたが、これは子育て世代が将来設計をするうえで詳細な情報が必要であると考えからです。申込者数に対する待機児童数の割合は、待機児童のみでは0.58%ですが、隠れ待機児童を含めると6.17%に大きく上がります。これは、170人に1人と16人に1人の違いです。

適切な情報を提供し、正確なデータに基づいて将来設計ができるようにすることは市の責務です。その意味でも、今回詳細なデータが市のホームページで市民の皆さんに届きやすい形で公開されたことは前進であると考えます。

申込者数に対する待機児童数の割合

申込者数	入所児童数	待機児童数	隠れ待機数	待機数+ 隠れ待機数	申込者数に対する 待機児童数の割合	
					待機	待機+隠れ
3,579	3,358	21	200	221	0.58%	6.17%

活動報告



2018年7月11日 児童相談所を視察

大島敦衆議院議員とともに市内に所在する埼玉県中央児童相談所を視察。所長からは、目下の課題に一時保護施設の不足があるとお話がありました。児童福祉施設との一時保護の受け入れの交渉は市が取り組むべき課題です。虐待などで辛い思いをする子どもを減らすための取り組みを求めていきます。

●皆さまのご意見を聞かせてください●



メール
ebihara116@gmail.com



フェイスブック
<https://www.facebook.com/ebihara.naoya12/>

■えびはら直矢プロフィール■

昭和62年12月3日生まれ。
●上智大学法学部卒
●首都大学東京社会人類学教室修了。
国連 UNHCR 協会職員などを経て、大島敦衆議院議員公設第一秘書を務める。

大学在学中に市民団体を設立し、現在も子どもの放課後を考える団体や演劇教育を推進する団体の運営に携わっている。2017年上尾市議会議員に当選。国民民主党所属。家族：妻、長男、長女、次女